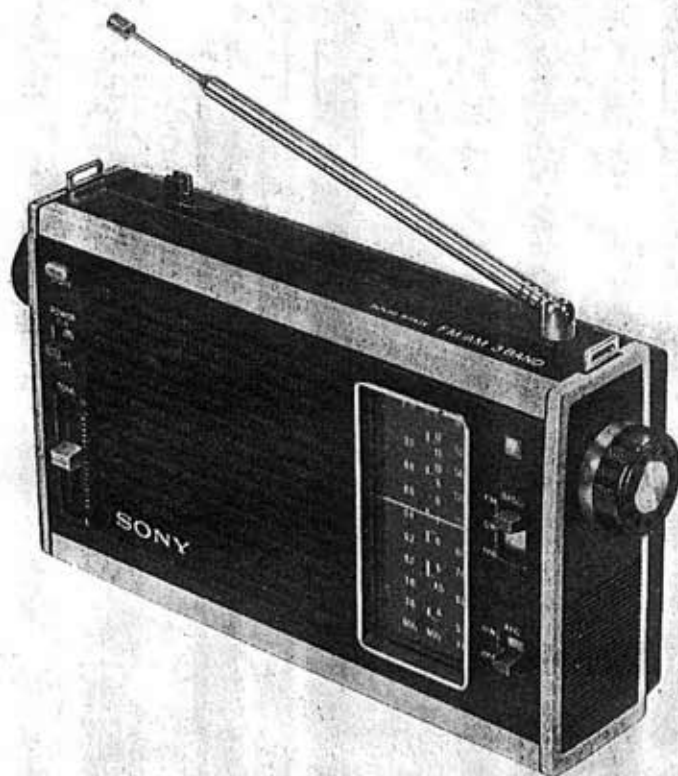


ICF-5300



ISOおじ使用

〈概略仕様〉

構成

回路方式 1 IC, 10 Tr スーパーヘテロダイン
アンテナ方式 MW: パーアンテナ 10φ × 160 mm
SW, FM: ロッドアンテナ 7段 86 cm

大きさ 幅 216 × 高さ 65 × 奥行 130 mm

重さ 1.15 kg (電池を含む)

電源 DC 4.5 V (UM-2 × 3)

AC 100 V, 50/60 Hz (AC-110 使用)

スピーカ 9.2 cm φ, 8 Ω

ジャック EARPHONE, MPX OUT, REC OUT,
TIMER (DC OUT), EXT DC IN

電気的特性

◀ AM 部 ▶

受信周波数 MW: 530 ~ 1,605 kHz

SW: 3.9 ~ 12 MHz

中間周波数 455 kHz

最大感度 MW: 37 dB/m (71 μV/m)

(出力 50 mW 時) SW: 10 dB/m (3.2 μV/m)

SN比 MW: 34 dB (入力 60 dB, 1,000 kHz にて)

SW: 44 dB (入力 44 dB, 8 MHz にて)

選択度 38 dB (1,400 kHz にて)

◀ FM 部 ▶

受信周波数 76 ~ 90 MHz

中間周波数 10.7 MHz

最大感度 0 dB (1 μV) S/N 6 dB 時
(出力 50 mW 時)

実用感度 12 dB (4 μV) S/N 30 dB 時
(出力 50 mW 時)

SN比 60 dB (入力 54 dB, 83 MHz にて)
◀ AM・FM 共通部 ▶

最大出力 2 W

消費電源 無信号時: AM 30 mA

FM 34 mA

最大出力時: 680 mA

付 属 品

現用電池	UM-2	3
イヤホン	ME-20	1
ACアダプタ	AC-110	1
キャリングケース		1
イヤホンケース		1
肩掛けベルト		1
その他	印刷物一式	

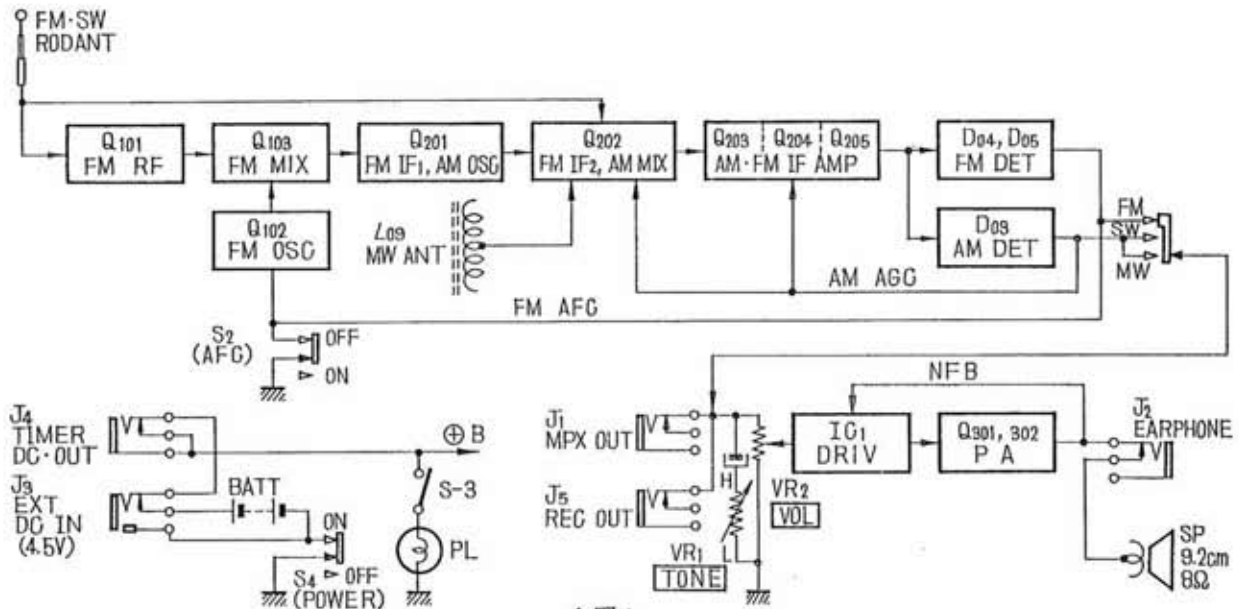
THE 11 Self

¥ 12,500

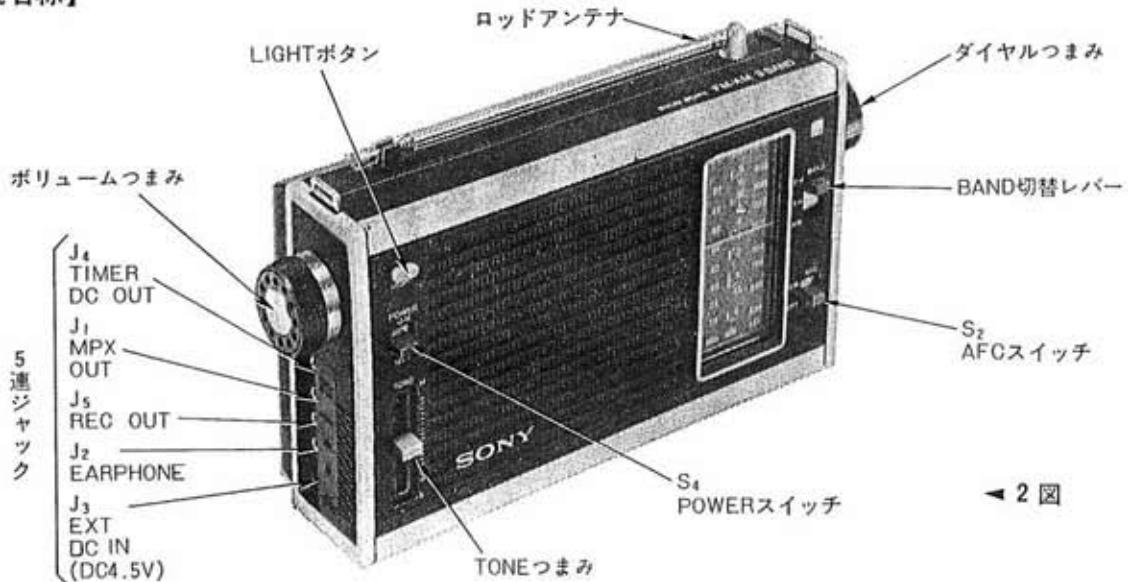
SONY®

ICF-5300

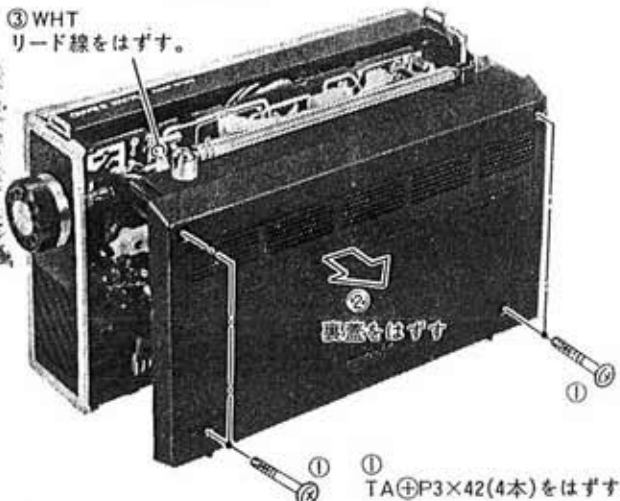
【ブロックダイアグラム】



【外観名称】



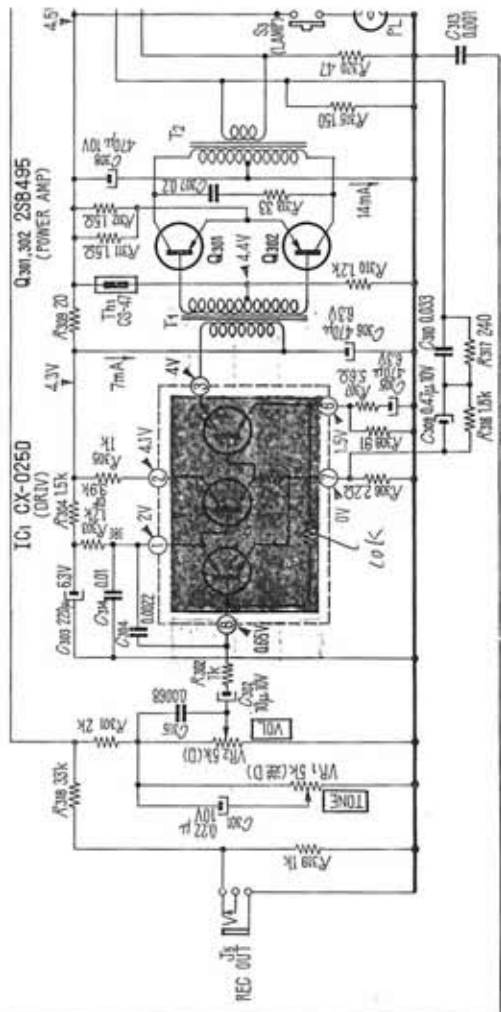
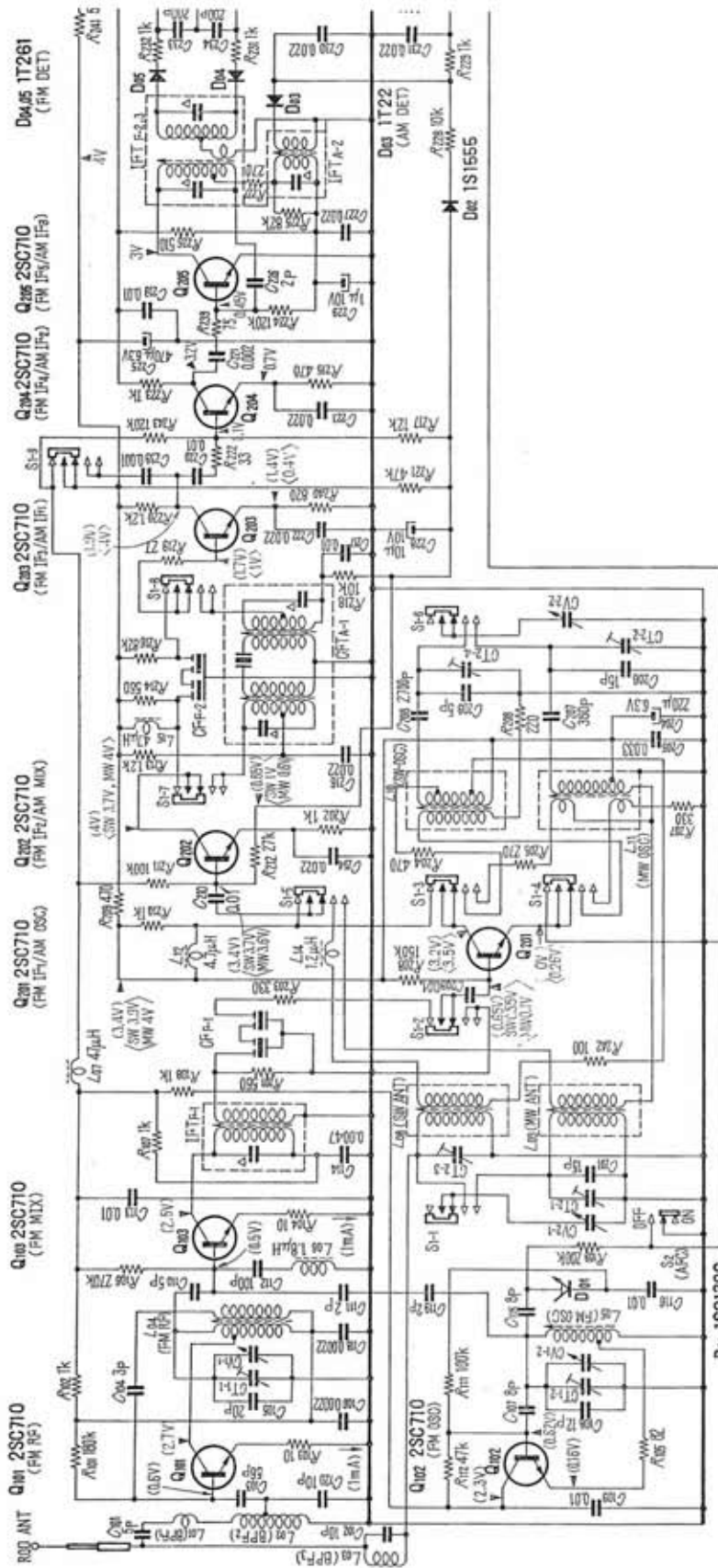
【裏蓋のはずし方】



【主要部品表】

品名	部品コード	定価	備考
キャビ本体組立	X-38436-81-0	1,200	裏蓋、電池蓋は含まず 電池蓋は含まず
＃ 裏蓋組立	＃ -82-0	300	
電池蓋組立	＃ -83-0	40	
TONEつまみ組立	＃ -84-0	100	
ダイヤルつまみ組立	＃ -01-0	100	
ボリュームつまみ組立	＃ -02-0	120	
LIGHT ボタン	3-840-436-00	10	
キャリングケース	3-843-634-00	500	
肩掛けベルト	X-38404-09-0	60	
イヤホンケース	3-816-719-00	15	
イヤホン (ME-20)	1-504-034-12	300	
ACアダプタ (AC-110)	1-463-804-00	1,000	補修用 特価

【回路図・電圧電流分布図】



- S-1 ~ 10 : / < 半切替
- FM : 電圧
- G.M : 電流
- SW : 電圧
- MW : 電流
- *印 : 調整抵抗
- Δ印 : 内蔵コンデンサ
- 電圧、電流の測定は、放送と兼用し、音量最小の位置で行なふ。
- ()内はFM、< >内はAM、他はAM/AM共通値を示す。

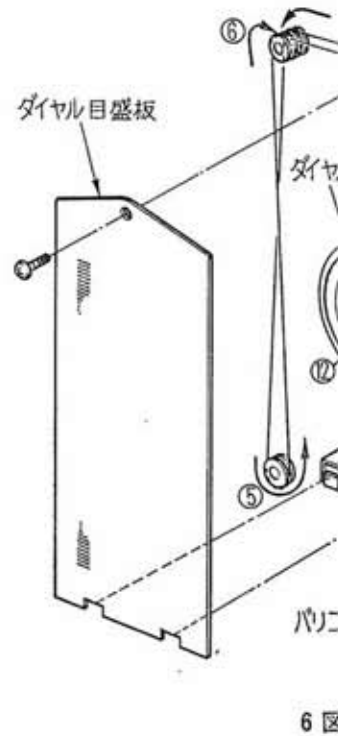
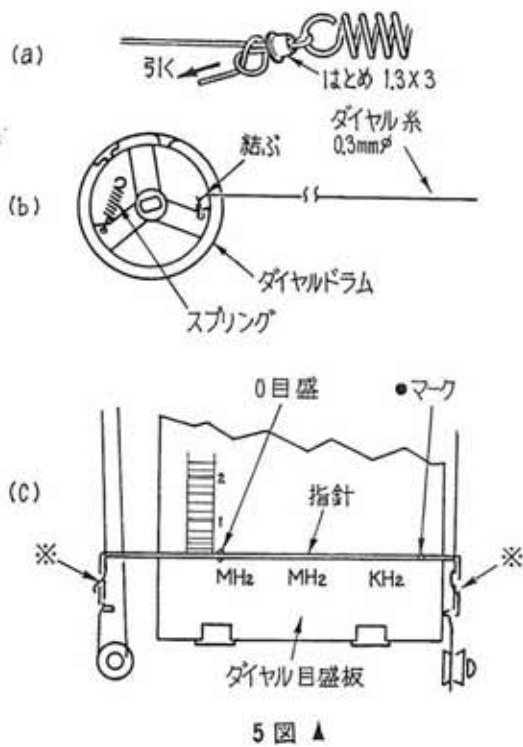
【ダイヤル糸掛け】

5, 6図を参照し、次のように行なってください。

- 1) 5図(b)のようにダイヤルドラムにダイヤル糸およびスプリングを取りつける。
 - 2) パリコン軸を反時計方向一杯に回し(Cmax), 6図の位置にダイヤルドラムを取りつける。
 - 3) 6図①~⑪の順に糸掛けを行ない, ⑫で糸をスプリングにはとめて固定する。このとき
 - ・糸は適当な張りを持たせること。
 - ・余った糸は切り取り5図(a)のように結んでおく。
 - ・糸の結び目に少量のボンドをつけ固定すること。
- 以上で糸掛けはできますが、糸掛け終了後、そのまま

の状態、次のように指針を取

- 1) 6図のようにダイヤル目盛
- 2) ダイヤル軸を左に回しCma
- 3) 5図(c)のように指針を目
- 4) 5図※印の部分に少量のボ



ICF-5300

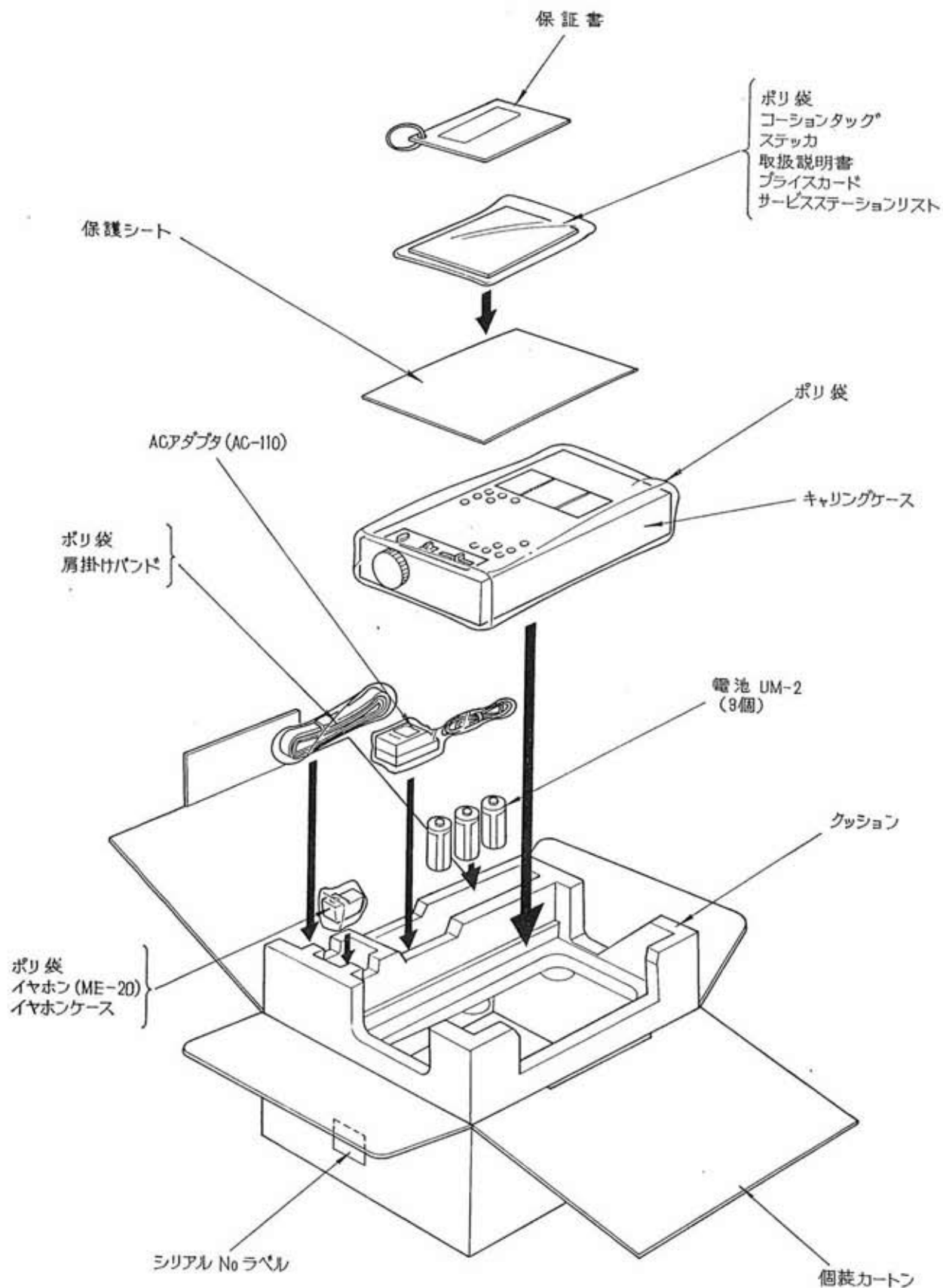
【AM部の調整】 ……調整箇所は14図参照

調整項目	調整順序	発振器周波数	ダイヤル位置	調整箇所	調整方法
I F	1	455kHz	放送信号または雑音の出ない位置	CFT _{A-1} IFT _{A-2}	9図のテストの振れが最大となるよう各コアを回す。
	2	1の調整を2～3回繰り返す。			
M 受信範囲	1	520kHz	f _{min}	L ₁₁	9図のテストの振れが最大となるようにコアを回す。
	2	1,680kHz	f _{max}	CT ₂₋₂	# # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			
W トラッキング	1	620kHz	発振器周波数に正しく同調をとる	L ₀₉	9図のテストの振れが最大となるようにコイルの位置を調整する。
	2	1,400kHz		CT ₂₋₁	# # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			
	4	調整後、L ₀₉ のコイルを封ロー止めする。			
S 受信範囲	1	3.9MHz	f _{min}	L ₁₀	10図のテストの振れが最大となるようコアを回す。
	2	12MHz	f _{max}	CT ₂₋₄	# # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			
W トラッキング	1	3.9MHz	f _{min}	L ₀₈	10図のテストの振れが最大となるようコアを回す。
	2	12MHz	f _{max}	CT ₂₋₃	# # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			

【FM部の調整】 ……調整箇所は14図参照

調整項目	調整順序	発振器周波数	ダイヤル位置	調整箇所	調整方法
I F	1	10.7MHz	放送信号離調位置	IFT _{F-1} F-2 F-3	11図のテストの振れが最大となるよう各コアを回す。
	2	発振器を微調し、テストの振れが最大となる点にセットする。			
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返して行なう。			
受信範囲	4	入力信号なし	放送信号離調位置	IFT _{F-3}	12図のテストの指示が0Vとなるようコアを回す。 (注) テスタの指示は(-)電位も示すが、あくまで0Vを指すように調整する。
	1	75.5MHz	f _{min}	L ₀₅	11図のテストの振れが最大となるようコアを回す。
	2	91.5MHz	f _{max}	CT ₁₋₂	# # # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			
トラッキング	4	調整後、コイルL ₀₅ を封ロー止めする。			
	1	75.5MHz	f _{min}	L ₀₄	11図のテストの振れが最大となるようコアを回す。
	2	91.5MHz	f _{max}	CT ₁₋₁	# # トリマを回す。
	3	1, 2の調整を2～3回繰り返し、2の調整で終るようにする。			
4	調整後、コイルL ₀₄ を封ロー止めする。				

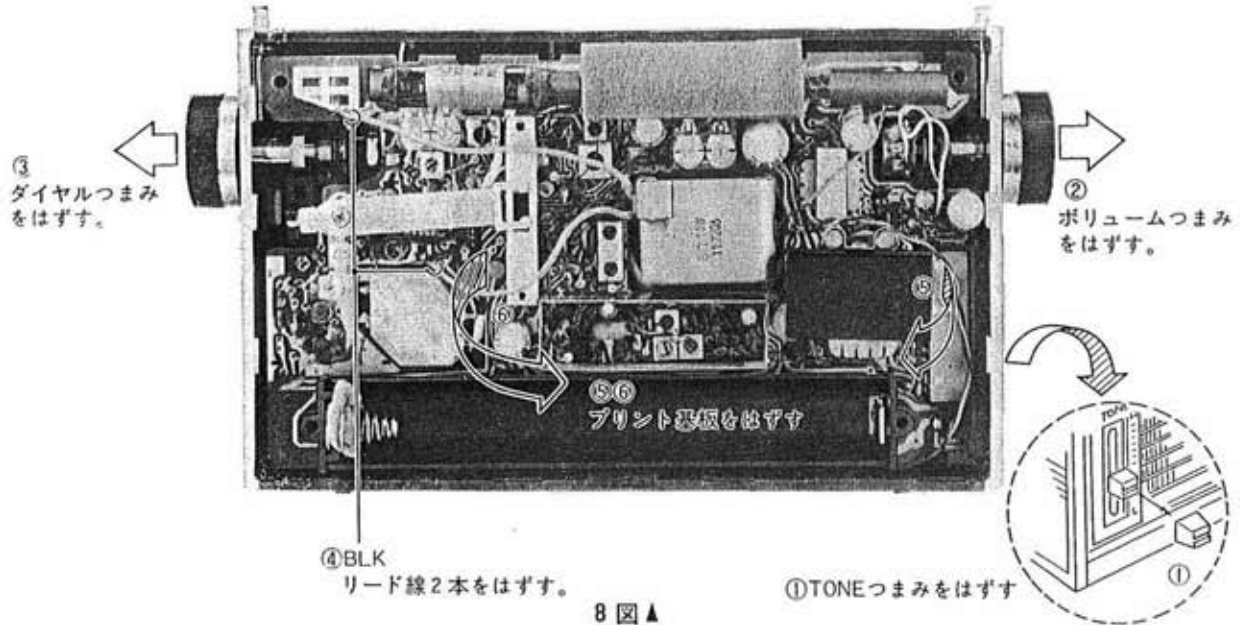
【梱包図】



7 図 ▲

【プリント基板のはずし方】

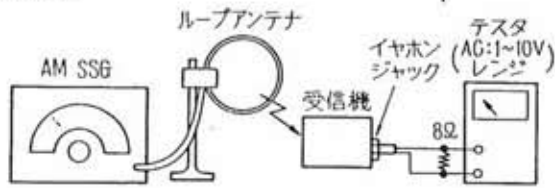
注) 裏蓋をはずした後、番号順(①-⑥)に行なってください。



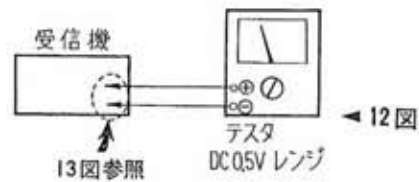
電気調整

【測定器の接続】

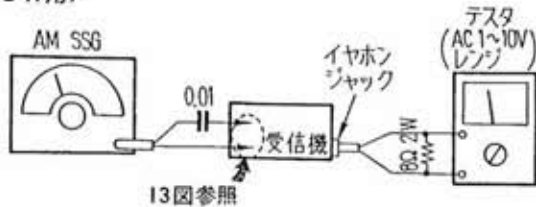
<MW用>



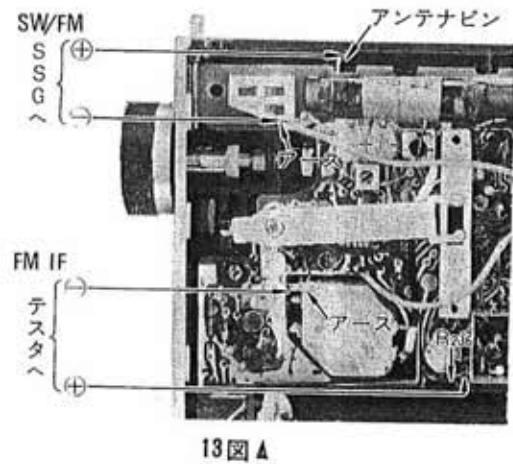
<FM IF>



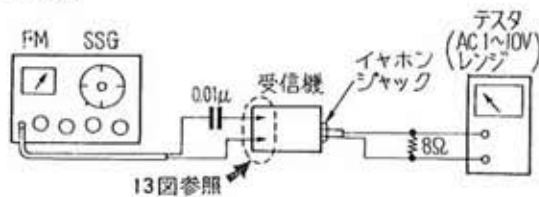
<SW用>



<SW、FM用>



<FM用>



【調整の前に】

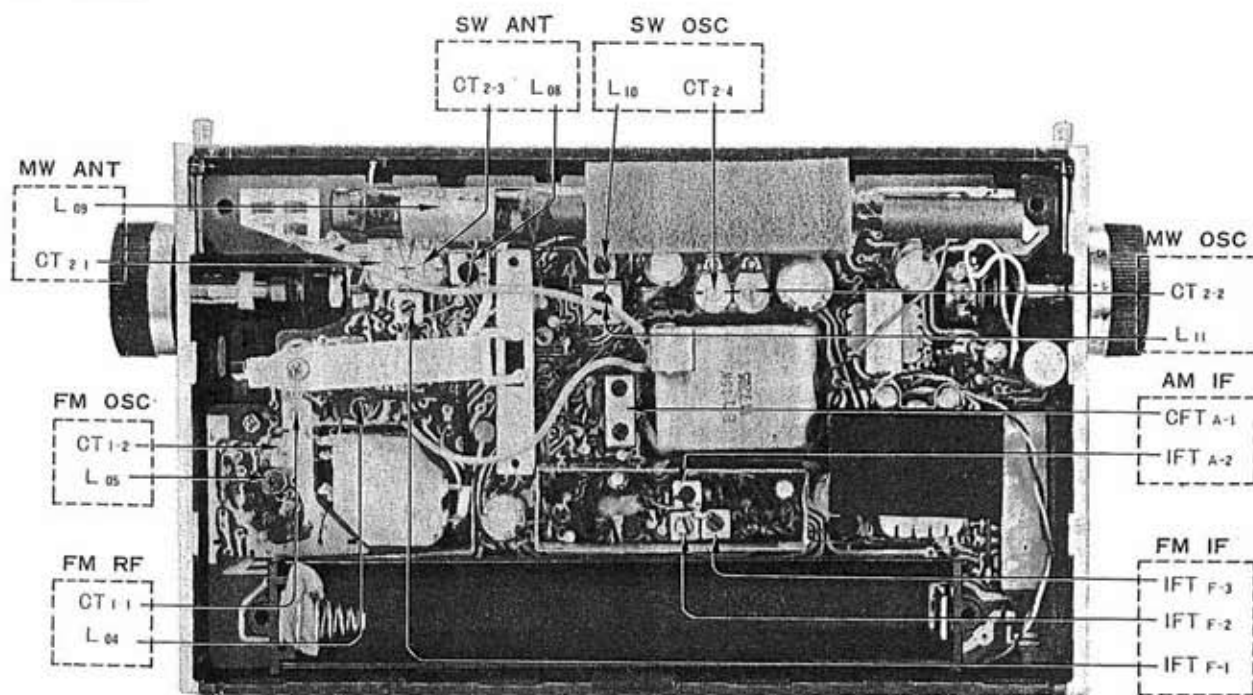
〈AM部調整に必要な条件〉

- ・BAND切替スイッチ……………MW側（またはSW側）
- ・VOLUMEつまみ……………最大位置
- ・発振器からの出力は、測定可能な限り小さくする。
- ・発振器は400Hz，30%AM変調とする。

〈FM部調整に必要な条件〉

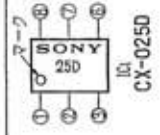
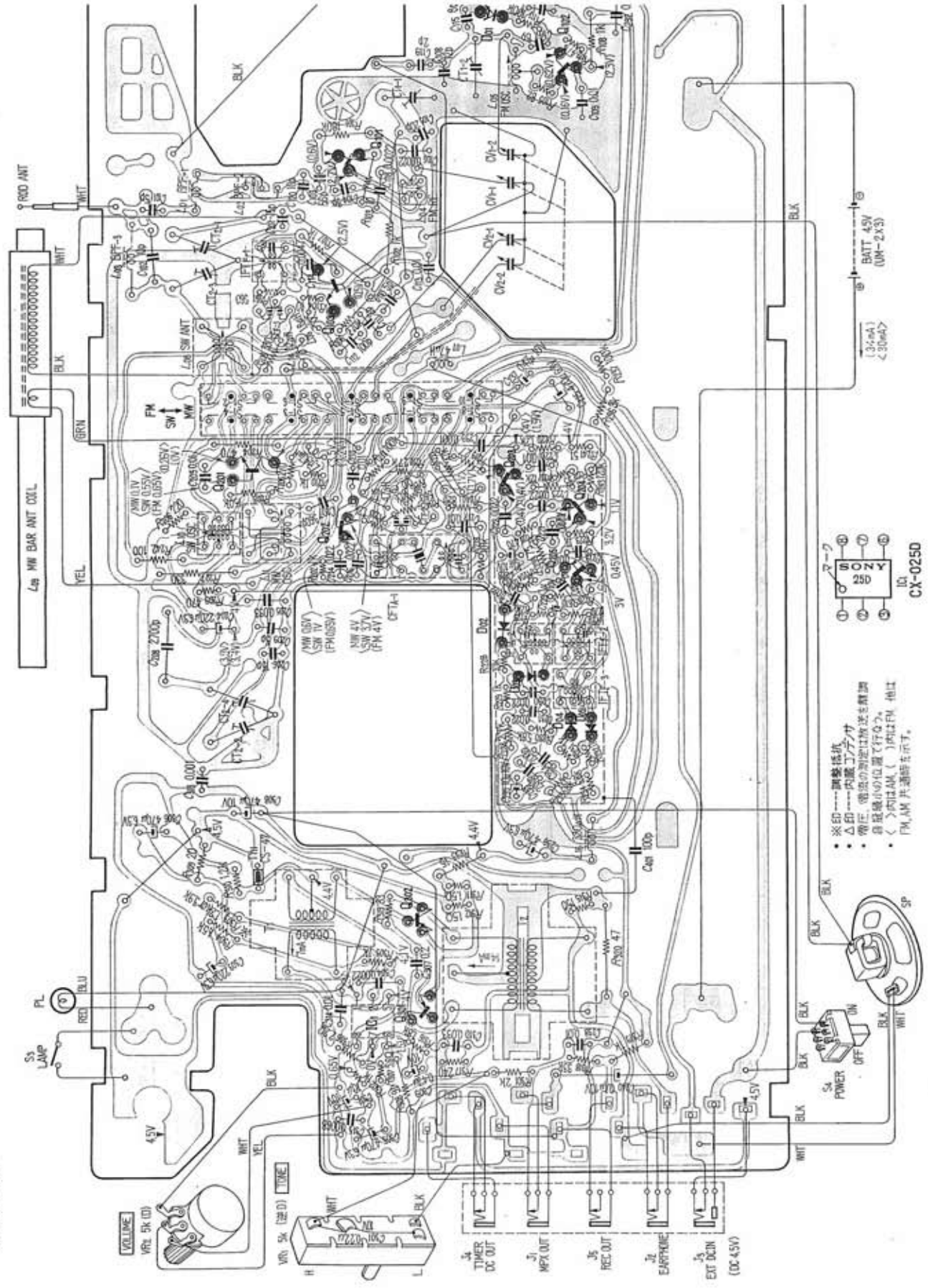
- ・BAND切替スイッチ……………FM側
- ・VOLUMEつまみ……………最大位置
- ・AFCスイッチ……………OFF側
- ・発振器からの出力は、測定可能な限り小さくする。
- ・発振器は400Hz，±22.5kHz偏位，FM変調とする。

【調整箇所】



14図 A

【プリント図】



- ※印 --- 調整抵抗
- △印 --- 内蔵コンデンサ
- 補正: 補正の測定は部品を挿入
自身最小の位置で行なう。
- < >内はAM ()内はFM. 他は
FM, AM 共通部を示す。

